Ishikawa

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-03-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00053506

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

17. 石川県　追補

古池　博（〒920-1147　金沢市銚子町リ441番地　石川県自然史センター（石川県立自然史資料館内）
furuike-h@n-muse-ishikawa.or.jp）

(A)　植物誌

『石川県植物誌』（石川植物の会編　1983）については，発行後すでに約30年を経過しているので，長年にわたり改訂の要望はあるが，具体的な企画は現在のところ，存在していない。

石川県環境部の委託事業として，このたび，石川県自然史センターによって生物名等データ作成事業が実施され，石川県下の動物，菌類，藻類，植物の多くの分類群の名称のリストが作成された。近く石川県と石川県自然史センターなどのホームページで公開される予定である。これはもともと，行政，調査，教育等で植物名を使用する際の，正確な名称を定めるための事業であったが，よく調査されている分類群については，事実上，2012年時点での目録となっており，分類群によって相違があるが，将来，更新されていく計画である。維管束植物については『石川県常用植物目録』の名称で纏められ，近く石川県自然史センターから，併せて刊行される見込みである。

石川県内の地域の植物目録としては，加賀市の『（仮）橋立自然園整備に伴う現況調査業務調査報告書』（加賀市橋立丘陵地現況調査実施委員会編2007），『加賀市山中温泉地区の植生』（石川県地域植物研究会編　2009），輪島市の『能登舳倉島・七ッ島の自然環境』（舳倉島・七ッ島自然環境調査団編2011）などが，それぞれ該当地域の最新の目録を掲載している。

また，金沢市では『金沢城公園（金沢城址）の植物相，その現状と挙動（石川県立自然史資料館研究報告№1，2，3）』（古池博ほか　2011，2012，2013）が，2005年に実施されたインベントリー調査の結果を目録の形態で掲載し，併せて1992年実施の同地のインベントリー調査データと種類ごとに比較して動態を解析している。

(B) 研究機関

石川県立自然史資料館Ishikawa Museum of Natural Historyが，2006年4月に新設された。2008年4月より指定管理者として石川県自然史センター（特定非営利活動法人）が，管理・運営している。同法人は，県下の自然史系団体27団体によって組織されたもので，自然史の調査・研究，普及教育活動が，自然史資料館と自然史センターの両輪の協働によって進むことが期待されている。植物，動物，地学，科学教育史関連の4分野で構成されている。刊行物：『石川県立自然史資料館研究報告（Bulletin of the Ishikawa Museum of Natural History）』（年刊）。

石川県立大学Ishikawa Prefectural University（設置者：石川県公立大学法人）が，県立農業短期大学を改組して2005年に発足した。生物資源環境学部（3学科）・大学院と生物資源工学研究所からなる大学である。植物分野と関係が深いのは環境科学科で，植物生態，動物生態，微生物生態の3つの分野がある。植物生態分野では，主に植物群落を中心として，動物，菌類との関連を含めて研究が行われている。

(C)　標本庫

前記の石川県立自然史資料館の標本庫は植物分野では収蔵庫は3，収蔵標本約25万点（登録されている略号：ISKW）である。標本は現在整理中であるが，整理済みが10万点程度の規模に達すれば，研究者等への公開が可能になると思われる。

旧石川県林業試験場は，2012年4月，組織改正により，石川県農林業総合研究センター林業試験場と改称した。これより先，同植物標本収蔵庫は，菌類のみを扱うことになり，腊葉標本はすでに石川県立自然史資料館に移管されている。金沢大学旧薬学部標本庫（現薬学類・創薬科学類標本庫）は薬用植物を重点的に扱う方針で，収蔵してきた腊葉標本約3.5万点は2013年3月に県立自然史資料館に寄贈された。

(D)　レッドデータブック

『改訂・絶滅の恐れのある野生生物いしかわレッドデータブック＜植物編＞2010』は，文字通り2000年に刊行された同書の改訂版である。今回は今のところ，刊行しない方針で，石川県のホームページ掲載とCD-ROMにより，公衆に供給する形態をとっている。調査・執筆は，引き続き石川県絶滅危惧植物調査会が担当した。

(E)　植物群落

(A) に記載した加賀市橋立丘陵地現況調査実施委員会編（2007），石川県地域植物研究会編（2009），舳倉島・七ッ島自然環境調査団編（2011）には，いずれも植物社会学的調査の結果が掲載され，植生図が付図として添付されている。